

令和2（2020）年度館長講座・学芸員講座

場所：斎藤清美術館 ホール

★各回とも先着25名。

★聴講は無料（展覧会をご覧になる場合は、観覧料が必要です）

！コロナウィルス感染症拡散防止のため、変更・中止になる場合がございます。ご了承ください。

□第1回 館長講座 ※終了しました！

7月25日（土） 午後2時～3時30分

「エゴン・シーレ作『家族』と100年前のパンデミック」

20世紀初頭ウィーンで活躍したエゴン・シーレが死の直前、1918年に描いた「家族」には、自分自身と妻と子供の3人が描かれています。しかし妻は子を宿したままスペイン風邪で亡くなり、三日後シーレ本人も同じ病で世を去ります。このとき、シーレはまだ28歳。本講座ではシーレの本作品について、当時の危機的な社会状況をからめて概説します。

□第1回 学芸員講座

8月15日（土） 午後2時～3時30分

「斎藤清が木目に見たもの」

斎藤清の版画作品に頻繁に見られる木目。猫のしなやかな体、滔々とゆく川の流れ、人の内に渦巻く情念―身近に目にするものから目には見えない世界まで、この世のあらゆる事物を木目で表現する斎藤清。そこからうかがわれるのは、ユニークで卓越したテクニックと、木目に対する深い思想。画家は木目に何を見出したのか。作品のイメージを読み解きながら、斎藤清の木目のナゾに迫ります。

□第2回 館長講座

9月19日（土） 午後2時～3時30分

「楽園追放と人類の誕生を絵画から読み解く」

アダムは土からつくられ、エヴァはアダムの肋骨から生まれた一人が土から創られる神話は世界共通です。禁断の木の実を食べたアダムとエヴァは楽園（パラダイス）を追放され、そこから人類の歴史が始まると旧約聖書は告げています。本講座では、アダムとエヴァの物語から着想された西洋美術の傑作を紹介します。

□第2回 学芸員講座

10月17日(土)午後2時～3時30分

「会津の冬—表現の変遷が語る 斎藤清 故郷への想い」

斎藤清の代表作にして、最も有名な《会津の冬》。懐かしい日本の原風景を描いたものとして、今なお多くの人々の心を魅了しています。一方で画家は、複雑な想いを抱きながら生涯このテーマと対峙し続けました。斎藤はなぜ会津の冬を描いたのか。表現の変遷から、《会津の冬》、そして故郷への想いを読み取ります。

□第3回 館長講座

11月21日(土)午後2時～3時30分

「執念深いゼウス —— 磔にされたプロメテウス、そしてパンドラと大洪水」

獣のように粗野に生きる人類を憐れんでオリュンポスから火を盗み分け与えたプロメテウスの行いに激怒したゼウスは、彼をカウカソスの岩壁に磔にし、ハゲワシに生きたまま肝臓を啄ばまれる罰を与えます。しかしそれでも怒りの収まらないゼウスは、恐るべき罫の秘められた「箱」とともに、絶世の美女パンドラを彼の弟のもとに送り込みます——ギリシア神話の有名なエピソードを画家たちはどう描いたのか見ていきます。